



Title	＜書評＞あなたに褒められたくて（高倉健著，集英社，1300円）
Author(s)	橋本， 衛
Citation	大阪公衆衛生． 1992， 62
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83865
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『あなたに褒められたくて』

(集英社 1300円)

高倉 健著

人生40年余り生きていると、どうもいろんな感覚が鈍くなってくるものらしい。良い意味にとると、物ごとにちょっとやそっとでは動じなくなる。あるいは、慌てたりあたふたしないのであるが、感受性が乏しくなり、何ごとにも無感動な人間になってしまっているような気がしてならない。若い頃であれば、映画を見ては本当に涙を流したり、その感動の余韻にしばらく身動きできなかつたりしたものであるが、最近は映画を見たり本を読んでも胸が熱くなるような感動があまりなく、なんとなくよかったなぁ〜で終わってしまう。寂しい限りであった。

そんな折り、ある友人から、「面白い本があるから読んでみな。」と1冊の本を手渡された。それは『あなたに褒められたくて』という題の本で、有名な映画俳優K・T著書であった。それは、彼の人生の中でめぐりあったいろんな人との出会いや感動を、オムニバス風に綴った作品であった。私は、その本を読むまで、それほど彼のことが好きでもなかったし、人付き合いが嫌いなタイプだと思っていた。しかし、読んでいるうちにひきずりこまれ、“仕事や旅を通じて出会ういろいろな人々、その出会いを大切に、相手の人間性、人格を理解しようとするところに感動が生まれる”と言う彼の主張に、思わず横っ面を張られた思いであった。そうだ、感性は磨くものなのだ。のほほんと生きていては、年とともに感性が鈍くなるのは当たり前である。この本との出会いを契機に、もう一度眠りかけていたあらゆる好奇心を揺り起こし、いろんな出会いに、血沸き肉踊るような感動を味わってみたいものである。

(堺市金岡保健所 橋本 衛)